

福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	福井県における咽頭結膜熱の発生動向調査
発表学会名	令和 6 年度地方衛生研究所全国協議会東海・北陸支部保健情報疫学部会
発表者名	小和田和誠(保健衛生部)
開催場所	岐阜市生涯学習センター(岐阜県岐阜市)
発表日	令和 6 年 10 月 10 日
発表内容	<p>令和 5 年の秋から冬にかけて咽頭結膜熱が全国的に流行し、福井県内でも患者が著しく増加した。そこで、近年の咽頭結膜熱の流行状況について把握するために、患者発生状況および当センターにおける病原体検出状況についてとりまとめた。</p> <p>患者情報については、平成 26 年第 1 週から令和 6 年第 30 週までを調査対象とした。小児科定点医療機関から毎週報告される咽頭結膜熱の患者情報について、NESID に登録されたデータを収集し、解析を実施した。</p> <p>その結果、令和 5 年の流行期では、平年と比べて 2 歳以上の割合が大きかった。十分なエビデンスは無いが、令和 2 年から令和 4 年頃までのコロナ禍における徹底した感染症対策により、感染を免れていた小児が初感染して、患者の増加の一因となった可能性は考えられた。また、保健所管轄地域別にみると、令和 5 年の流行期に過去最多となった地域もあったが平年並みの地域もあり、地域差が見られた。</p> <p>病原体検査については、平成 26 年1月から令和 6 年 7 月末までに採取された咽頭結膜熱(疑い例を含む)患者の臨床検体を対象とした。アデノウイルスのヘキソン遺伝子領域を標的とした PCR 検査を実施し、陽性検体は、ダイレクトシーケンス法を用いて型別を実施した。</p> <p>その結果、調査対象の 113 名中 89 名からアデノウイルスを検出した。令和 5 年の 9 月から 12 月の間の流行時に検出されたアデノウイルスは全て 3 型(5 名)であった。</p>